



大島康義先生を悼む

本学会名誉会員，九州大学名誉教授，大島康義先生には去る平成2年3月31日，呼吸不全のため米寿をまじかに86歳の生涯を終えられました。

先生は明治36年8月22日，東京でお生まれになり，昭和3年3月，東京帝国大学農学部農芸化学科を御卒業，同年新設の台北帝国大学に赴かれ，山本亮先生を助けて農芸化学科第二講座（食品化学・農産物利用学）の創設・基礎作りに参画され，昭和15年教授にご昇任，熱帯農産物，茶葉その他植物の化学成分，とくにフラボノイドとタンニンの研究を展開されましたが，農薬関係ではミカンコミバエに対するメチルユージオールの誘引効果を発見しておられます。昭和20年大戦の終えんに当り，自ら育てた大学の国立台湾大学としての新生に参加し，18年に及ぶ台湾でのご活躍を終えられました。

昭和22年2月九州大学教授に就任，生物化学講座を担当されました。フラボノイド・タンニン等天然物の化学的研究に加えて，酵素および物質代謝に関する生化学的研究を進められ，またハエドクソウ殺虫成分の研究を開始されました。昭和32年，国立大学では2番目に新設された農薬化学講座の初代教授に就任され，生物化学を基礎とし，天然物を手本として農薬研究を行なうとの方針を立てられ，マツクイムシ誘引物質，線虫誘引物質，殺虫性植物成分，イネの病害抵抗物質，有機リン化合物，硝化抑制剤等の研究を進められました。代謝産物を手本とするサリゲニン環状リン酸エステルの化学的生化学的研究は，昭和38年ロンドンにおける第1回国際農薬化学会議での発表，朝日学術奨励金・紺綬褒章の受賞，実用殺虫剤サリチオンの発明へと発展しました。天然物関係ではハエドクソウ成分の研究が，その後新規殺虫性リグナンの発見へと発展しています。また昭和35年にはライフワーク「タンニンの化学的研究」によって日本農学賞をご受賞になりました。昭和42年停年により九州大学をご退官になり，九州大学名誉教授の称号を授与され，以来7年間明治大学農学部教授として，有機合成化学研究室を主宰され，その後も講師として昭和54年まで

学生の教育指導に当たられました。この長年のご功績により昭和 55 年勲三等旭日中綬章を受けられました。

先生は本会名誉会員に推挙されたほか、昭和 44 年から 2 年間日本農芸化学会会長を務められ、同会名誉会員に推挙されました。また日本生化学会会頭、日本分析化学会九州支部長等を歴任して斯界の発展に寄与されました。昭和 42 年（第 1 回農薬科学シンポジウム開催の前年）福岡で佐藤六郎、鮎沢啓夫、田村三郎、中島稔の各氏を招いて農薬シンポジウムを開催され、また日米科学協力事業第 1 回農薬セミナー（鮎沢啓夫組織委員長）の福岡開催に尽力されました。

先生は厳しいなかにも温情あふれるご指導によって、多くの門下生を育てられました。農薬関連分野で活躍している門下生も台湾大学の陳玉麟教授を含めて多数にのぼります。ご退官後もしばしば学会に出席頂いたことは私共の励みとなっていました。昭和 62 年秋、キャンダ教授らを招いて開催した九大農薬化学講座開講 30 周年記念藪田セミナー「農薬科学の新展開」においでいただき、また記念出版「生物制御科学の展開—新しい農薬研究開発の視点」にも珠玉の一篇を頂いたことは誠に幸いでした。この絶筆に素晴らしい宝物を遺して先生は逝かれたのではないかと思います。先生は非常に先見性があり、何気ない調子でおっしゃったことが随分後になって実現し驚くことがしばしばありました。たとえば、サリゲニン環状リン酸エステルは有機合成に使えないかなと言われたことがありましたが、後にサイクリック AMP 等の合成試薬 MTBO を得ることができました。講座開設当時、現在いうところのファイトアレキシンを予見し、イネのフラボノイドを探索しておられたが、実際に最近サクラネチンが発見されています。またいわゆるマツクイムシの誘引物質として松材から安息香酸を見い出し、その誘導体を種々合成されていましたが、現在安息香酸誘導体と松枯れの関係が解明されつつあるのも興味深いことです。

先生は農薬学と本会に対して多くの有形無形の偉大な寄与をなされました。今またご遺族から本会に対して多額のご寄付のお申し出をいただいています。本会としては奨励賞副賞として、有難く使わせていただくことにいたしました。多くの若い研究者の励みとなり、優れた研究が続々と現れることを切望する次第です。

先生がお亡くなりになった時あたかも日本農芸化学会 1990 年度大会が福岡市で開催されており、満開の桜が静かに散り始めていました。九大におられた頃の先生のお住まい近くの楠並木の若葉が美しい五月、福岡で追悼式をいたしました。

楠若葉光を反すたまゆらに笑みませる師のまぼろしに会う
拙ない一首を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

江藤守総（日本農薬学会会長 九州大学農学部教授）